

(8) 多足類

多足類とは節足動物門多足亜門に属するムカデ綱（唇脚綱）、ヤスデ綱（倍脚綱）、エダヒゲムシ綱（少脚綱）、コムカデ綱（結合綱）の4綱の総称である。多足類の分類及び地理的分布の研究は、多くの研究者により解明が進んでいるが、未だ十分とは言えない状況にある。そのため、種名未確定種も多く分類体系も未だ安定していない。

本書では、多足類の掲載種は前版と同じであるが、掲載種が所属する分類群（科）を変更した種が2種類（オガワアカムカデとキレコミヤスデ）ある。また、埼玉県内の調査が不十分なエダヒゲムシ綱とコムカデ綱は、前版までと同様、レッドリスト作成のための調査対象動物群からはずしている。

日本産の多足類（ムカデ綱、ヤスデ綱）の種数は種名未確定種を含め、ムカデ綱は4目15科36属約150種、ヤスデ綱は10目33科71属約300種と思われる。埼玉県からはこれまでにムカデ綱が4目13科20属48種1亜種、ヤスデ綱が6目15科28属57種2亜種記録されている。その中で移入種と考えられるヤスデ綱のヤンバルトサカヤスデを除いたムカデ綱48種1亜種、ヤスデ綱56種2亜種が土着の埼玉県産種と思われる。そのうち本書に掲載した種数と県産種に占めるその割合は、ムカデ綱が12種で約24%、ヤスデ綱が17種で約29%である。

これまでの多足類の掲載種数の変遷をみると、初版はムカデ綱7種、ヤスデ綱13種が掲載された。改訂版ではムカデ綱は2種削除、7種追加により結果として12種、ヤスデ綱は2種削除、6種追加により計17種が掲載された。前版と本書は改訂版と同種が掲載されている。

掲載種については改訂版以降変更がないが、本書では掲載種の多くがレッドランクを変更している。絶滅危惧IA類（CR）、絶滅危惧IB類（EN）や準絶滅危惧（NT1）から絶滅（EX）に変更になった種類として、ヤスデ綱のトワダオビヤスデ、ヒロサミフジヤスデ、トガリフジヤスデ、ケナガシロハダヤスデの4種がある。絶滅危惧IB類（EN）、準絶滅危惧（NT1）や情報不足（DD）から絶滅危惧IA類（CR）に変更になった種として、ムカデ綱ではオガワアカムカデ、ニホンニブズジムカデ、マキジマエスカリジムカデ、ヒトアナミドリジムカデ、オオイッスンムカデ、ヒトアナベニジムカデ、ヤスデ綱ではオビババヤスデ、コブヤスデ、トリイリュウガヤスデ、ツメフジヤスデ、コトブキババヤスデ、シロホタルヤスデ、ミヤマタテウネホラヤスデ、ヤマトタマヤスデ、シライワババヤスデ、キレコミヤスデの計16種がある。また、情報不足（DD）から準絶滅危惧（NT1）に変更になった種として、ムカデ綱のスジメナシムカデ、スミジムカデ、フチケミドリジムカデ、ミドリジムカデの4種がある。

結果として、本書に掲載された29種は、絶滅危惧IB類（EN）および情報不足（DD）とした種はなくなり、4種が絶滅（EX）、18種が絶滅危惧IA類（CR）、7種が準絶滅危惧（NT1）にランクされた。

絶滅（EX）と判断された4種については、県内では1ヶ所または2ヶ所の産地情報しかない上に前版以降も新たな記録がないことから、産地や生息環境が消失したと捉えることができる。

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

| |
|------------|
| 哺乳類 |
| 鳥類 |
| 爬虫類 |
| 両生類 |
| 魚類・ 円口類 |
| 昆虫類 |
| 甲殻類 |
| 多足類 |
| クモ目 |
| 軟体動物 |
| 扁形動物 |

たとえばトワダオビヤスデの産地は小鹿野町の合角ダムの完成により水没した。トガリフジヤスデ、ヒロサミフジヤスデ、ケナガシロハダヤスデの産地は県南地域の低地帯にあり、これらのヤスデ類の生息に適する緑地が急激な都市化により消滅した。土壌動物である多足類は土壌依存性が非常に強い。樹林の伐採や下草の刈り払いにより落枝落葉の供給が途絶えると多くの土壌動物の生息環境となる腐葉土層は貧弱になり乾燥化が進む。また、人の踏みつけにより土壌間隙が減少し土壌は固くなる。このような都市化による土壌の変質により、多足類は生息地を失うことになる。

絶滅危惧 IA 類 (CR) と準絶滅危惧 (NT1) とランクされた種類は、県内の既知産地が 1 ヶ所から数ヶ所であり生息状況は厳しく絶滅が危惧されるが、産地周辺の地域には同様の自然環境が残されており、現在も生息していると判断される。

たとえば、シロホタルヤスデ、トリイリュウガヤスデ、ミヤマタテウネホラヤスデはいずれもタイプ産地は洞穴であるが、洞穴内だけではなく洞穴外からも記録されている。また、台地・丘陵帯及び低山帯から記録されているアワヒトフシムカデ、スジメナシムカデ、ミドリジムカデ、ヤマトタマヤスデ、キレコミヤスデ、ツメフジヤスデなどは今後の精査により新たな産地が見つかる可能性がある。さらに、秩父多摩甲斐国立公園の特別地域に生息するニホンニブズジムカデ、チチブジムカデ、スミジムカデ、ヒトアナミドリジムカデ、コトブキババヤスデ、シライワババヤスデ等についても生息状況の情報は不十分であるが、今後の調査により新たな生息情報が得られることを期待したい。

埼玉県は大都市東京に北接し、戦後 70 年間、低地帯及び台地・丘陵帯は都市化の波にさらされ続けてきた。河川敷の改修、田地の埋め立て、雑木林の伐採、丘陵の切り崩しなどである。多足類は人目に触れにくい土壌を重要な生息場所とし、人間社会との関わりが薄いため、本来の生息状況が解明されぬまま、県内に生息していた種類が絶滅、または絶滅に瀕していると考えられる。そして、低山帯、山地帯、亜高山帯においても人間による経済活動や気候変動の影響により生態系に大きな変化が起こっていると推測される。自然環境を変化させる人間の経済活動や平野部の都市化が多足類の生息にとって最大の脅威であると言える。

[付記] 次ページ以降の種ごとの解説において、形態や国内分布に関する項目は、青木 編 (2015)、三好 (1959)、埼玉県 (2008) 及び高桑 (1940a,b, 1942, 1954) を参照した。

| | | | | | |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----|-----------|---|
| 【目名・科名】 | オビヤステ目オビヤステ科 | 埼玉県(2018) | EX | 環境省(2014) | - |
| 【和名】 | トワダオビヤステ | | | | |
| 【学名】 | <i>Epanerchodus towadaensis</i> Shinohara | 指定状況 | - | | |
| 【形態】 | 体長18～28mm、体幅2.5～3.5mm、体色赤褐色、胸板と歩肢は黄色、胴節数20。 | | | | |
| 【国内分布】 | 本州 | | | | |
| 【主な生息環境】 | 落葉広葉樹林の落枝落葉層、腐葉土層。 | | | | |
| 【県内での生息状況】 | 小鹿野町の合角ダム水没予定地から記録された。採集地は放棄された畑をダム建設の資材置場に転用した場所である。その後、合角ダムの完成により水没し、ダム周囲の地域からは記録されていない。絶滅したと思われる。 | | | | |
| 【特記事項】 | 本種のタイプ産地は青森県の十和田神社。近県ランク 千葉：最重要保護生物（A）。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----|-----------|---|
| 【目名・科名】 | オビヤステ目シロハダヤステ科 | 埼玉県(2018) | EX | 環境省(2014) | - |
| 【和名】 | ケナガシロハダヤステ | | | | |
| 【学名】 | <i>Kiusiumum longisetum</i> Miyosi | 指定状況 | - | | |
| 【形態】 | 体長10mm、体幅3mm、体色白粉色～灰白色。頭部は頸板に覆われ背面からは見えない。 | | | | |
| 【国内分布】 | 本州、四国、九州 | | | | |
| 【主な生息環境】 | 主に広葉樹林の林床、朽木の裏や落枝落葉層に生息する。 | | | | |
| 【県内での生息状況】 | 県内では、1989年に旧浦和市（現さいたま市南区）根岸などから採集されているが（西川・村上, 1994）、その後記録がない。記録にある根岸の具体的な産地は特定できないが、さいたま市南区は都市化が進み、昔からの緑地はほとんどない。本種は県内から絶滅したと考えられる。 | | | | |
| 【特記事項】 | 本種のタイプ産地は、滋賀県旧米原町（現米原市）谷山である。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----|-----------|---|
| 【目名・科名】 | ヒメヤステ目ヒメヤステ科 | 埼玉県(2018) | EX | 環境省(2014) | - |
| 【和名】 | トガリフジヤステ | | | | |
| 【学名】 | <i>Anaulaciulus acutus</i> Takakuwa | 指定状況 | - | | |
| 【形態】 | 体長17mm、体色黒色、頸板は黄色、オスの胴部は47節。前生殖肢の内角は鋭く突出する。 | | | | |
| 【国内分布】 | 本州 | | | | |
| 【主な生息環境】 | これまでの産地の具体的な記録がないため生息環境は不明だが、広葉樹林の落枝落葉層及び腐葉土層に生息すると思われる。 | | | | |
| 【県内での生息状況】 | 県内の分布は、篠原圭三郎（1978）により「旧入間川町」と「川越」が挙げられている。より詳細な採集地名や採集年月日等の記録はない。その後も県内からの記録はまったくない。現狭山市や川越市の郊外は都市開発が進み住宅地、工業団地や運動施設等が造成されている。残された田畑も整備され、屋敷林や社寺林はほとんど姿を消し、わずかに雑木林が残っている状況である。篠原が記録した「旧入間川町」と「川越」の地域はそれぞれ狭山市と川越市の中心市街地に化していると考えられ、県内に生息する本種は絶滅したと考えられる。 | | | | |
| 【特記事項】 | 本種は1940年に新種記載された。タイプ産地は「信濃下条」（長野県下伊那郡下條村）と「三河田原」（愛知県田原市田原町）である。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----|-----------|---|
| 【目名・科名】 | ヒメヤステ目ヒメヤステ科 | 埼玉県(2018) | EX | 環境省(2014) | - |
| 【和名】 | ヒロサミフジヤステ | | | | |
| 【学名】 | <i>Anaulaciulus hirosaminus</i> Attems | 指定状況 | - | | |
| 【形態】 | 体長17mm、体幅1.4mm、体色、各胴節の前方は黄色を帯び後方は暗褐色、胴節数50。 | | | | |
| 【国内分布】 | 本州、四国 | | | | |
| 【主な生息環境】 | これまでの産地の具体的な記録がないため生息環境は不明だが、広葉樹林の落枝落葉層及び腐葉土層に生息すると思われる。 | | | | |
| 【県内での生息状況】 | 高桑（1954）によると本種の産地は「東京」、「今治」とともに「浦和」が挙げられている。その後、県内からの記録はまったくない。「浦和」地区は都市化が著しく進み、現存する緑地は人工的なものになったり、人が強く管理するものになったりしている。残された林床に生息する多足類は腐葉土層の踏圧や清掃等により生息が脅かされている。本種は県内では絶滅したと考えられる。 | | | | |
| 【特記事項】 | 本種のタイプ産地は、原記載文献によると Japan : Hiro Sami とあるが、現在地は不明である。 | | | | |

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

【目名・科名】 イシムカデ目 イッスンムカデ科
 【和名】 **オオイッスンムカデ**
 【学名】 *Bothropolys gigas* Takakuwa
 埼玉県(2018) CR 環境省(2014) -
 指定状況 -

【形態】 体長約 35mm、体幅約 4mm、体色黄褐色、歩肢 15 対。触角 20 ~ 22 小節。単眼群は 6 列約 35 個。
 【国内分布】 本州
 【主な生息環境】 森林の林床。
 【県内での生息状況】 篠原 (1978) が 1960 年に奥秩父山塊の旧大滝村 (現秩父市) の白岩山から記録している。また、桑原 (1986) が同じく旧大滝村 (現秩父市) の将監峠から記録している。その後、生息記録はなく絶滅が危惧される。
 【特記事項】 タイプ産地は千葉県香取市 (記載時は香取郡香取町) である。近県ランク 千葉: 消息不明・絶滅生物 (X)。

【目名・科名】 オオムカデ目 アカムカデ科
 【和名】 **オガワアカムカデ**
 【学名】 *Scolopocryptops ogawai* Shinohara
 埼玉県(2018) CR 環境省(2014) -
 指定状況 -

【形態】 体長は約 40mm、体色赤褐色、歩肢は 23 対。無眼、最終歩肢の脛節と跗節に密微毛が生える。
 【国内分布】 本州
 【主な生息環境】 常緑広葉樹林、クヌギ・コナラ林や常緑落葉混交林内の倒木樹皮下、落枝落葉下、石の下及び腐葉土中に生息する。
 【県内での生息状況】 県内での記録は戸田市の後谷公園とコナラ・クヌギの二次林から採集されているだけである。
 【特記事項】 本種のタイプ産地は、静岡県袋井市である。

【目名・科名】 ジムカデ目 ナガズジムカデ科
 【和名】 **ニホンニブズジムカデ**
 【学名】 *Nodocephalus areolatus* Shinohara
 埼玉県(2018) CR 環境省(2014) -
 指定状況 -

【形態】 体長約 18mm、体色黄色、歩肢 41 対。頭側板の先端に円錐状突起はない。
 【国内分布】 本州 (埼玉県)
 【主な生息環境】 亜高山帯の原生林の林床、朽木下や蘚苔類の下層に潜んでいる。
 【県内での生息状況】 本種は、篠原 (1954) により旧大滝村大滝のお経平 (現秩父市大滝のお清平) をタイプ産地とする新種として記載された。他の産地はお清平の南に位置する前白岩山と白岩山である。生息域はごく狭い範囲であり絶滅が危惧される。
 【特記事項】 本種は、埼玉県以外からの記録はない。

【目名・科名】 ジムカデ目 マツジムカデ科
 【和名】 **マキジマエスカリジムカデ**
 【学名】 *Escarys makijimae* Takakuwa
 埼玉県(2018) CR 環境省(2014) -
 指定状況 -

【形態】 体長約 30mm、体色黄色、歩肢 45 または 47 対。上唇は深く湾入し、短く太い歯が約 20 個ある。
 【国内分布】 本州
 【主な生息環境】 落葉広葉樹林内の落枝落葉層と腐葉土層が発達した土中に生息する。
 【県内での生息状況】 県内からは篠原 (1978) が旧入間川町 (現狭山市) と川越を産地として報告している。産地の具体的な場所は不明であるが、両市の開発に伴う自然の減少は著しく、産地は消滅してしまった可能性が高い。他の産地としては旧児玉町 (現本庄市) が報告されている (桑原, 1993c)。その後、記録はなく、絶滅が危惧される。
 【特記事項】 本種のタイプ産地は、長野県飯田市である。

| | | | | | |
|------------|--------------------------------------------------|-----------|----|-----------|---|
| 【目名・科名】 | ジムカデ目マドジムカデ科 | 埼玉県(2018) | CR | 環境省(2014) | - |
| 【和名】 | ヒトアナミドリジムカデ | 指定状況 | | | |
| 【学名】 | <i>Cheiletha monoporus</i> Takakuwa | - | | | |
| 【形態】 | 体長10mm、体色は頭部淡褐色、胴部黄色、歩肢41~47対。最終歩肢の基節の腺孔は1つ。 | | | | |
| 【国内分布】 | 本州 | | | | |
| 【主な生息環境】 | 森林の林床。 | | | | |
| 【県内での生息状況】 | これまでの産地記録は、篠原(1978)により旧大滝村(現秩父市)の雁坂峠と三峰山の2ヶ所である。 | | | | |
| 【特記事項】 | 関東地方の記録が多い。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|---------------------------------------------------|-----------|----|-----------|---|
| 【目名・科名】 | ジムカデ目ベニジムカデ科 | 埼玉県(2018) | CR | 環境省(2014) | - |
| 【和名】 | ヒトアナベニジムカデ | 指定状況 | | | |
| 【学名】 | <i>Strigamia monoporus</i> (Takakuwa) | - | | | |
| 【形態】 | 体長10~14mm、体色朱紅色、歩肢55~63対。最終歩肢節の基節腺孔は1個。 | | | | |
| 【国内分布】 | 本州 | | | | |
| 【主な生息環境】 | 埼玉県では落葉広葉樹と針葉樹の混交林の林床。 | | | | |
| 【県内での生息状況】 | 県内の記録は、旧大滝村(現秩父市)の雲取山北側(標高1,800m)の1ヶ所のみで絶滅が危惧される。 | | | | |
| 【特記事項】 | 本種の体長及び歩肢対数は原記載では10mm、63対であるが、雲取山の個体は14mm、55対である。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------|-----------|----|-----------|---|
| 【目名・科名】 | タマヤステ目タマヤステ科 | 埼玉県(2018) | CR | 環境省(2014) | - |
| 【和名】 | ヤマトタマヤステ | 指定状況 | | | |
| 【学名】 | <i>Hyleoglomeris japonica</i> Verhoeff | - | | | |
| 【形態】 | 体長約6mm、体色黒色、背板の前縁は淡黄色、歩肢対数はオス19(生殖肢を含む)、メス17。 | | | | |
| 【国内分布】 | 本州 | | | | |
| 【主な生息環境】 | タマヤステ類は倒木の下や朽木の樹皮下などに潜んでいることが多い。移動性が低いめか、林床に一樣に分布することはなく、ごく狭い範囲に群れて生息することがある。 | | | | |
| 【県内での生息状況】 | 1992年に皆野町下日野沢水潜寺周辺で採集された記録がある。県内での記録はこの1例のみ。その後、記録がなく絶滅が危惧される。 | | | | |
| 【特記事項】 | 近県ランク 千葉：重要保護生物(B)。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|-------------------------------------------------|-----------|----|-----------|---|
| 【目名・科名】 | オビヤステ目ババヤステ科 | 埼玉県(2018) | CR | 環境省(2014) | - |
| 【和名】 | オビババヤステ | 指定状況 | | | |
| 【学名】 | <i>Parafontaria laminata laminata</i> (Attems) | - | | | |
| 【形態】 | 体長約45mm、体幅7mm、背面鮮紅色、後環節の後縁に黒色の横帯あり。 | | | | |
| 【国内分布】 | 本州 | | | | |
| 【主な生息環境】 | 関東と本州中部地域の森林の林床。 | | | | |
| 【県内での生息状況】 | 旧大滝村(現秩父市)の雁坂峠と奥秩父林道から記録されている。最近の記録はなく絶滅が危惧される。 | | | | |
| 【特記事項】 | 本種のタイプ産地は山梨県富士吉田市。近県ランク 千葉：一般保護生物(D)。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----|-----------|---|
| 【目名・科名】 | オビヤステ目ババヤステ科 | 埼玉県(2018) | CR | 環境省(2014) | - |
| 【和名】 | コトブキババヤステ | 指定状況 | | | |
| 【学名】 | <i>Parafontaria Takakuwai</i> (Shinohara) | - | | | |
| 【形態】 | 体長40mm、体幅6mm、体色背面灰黄褐色・腹面黄色。 | | | | |
| 【国内分布】 | 本州(埼玉県) | | | | |
| 【主な生息環境】 | 奥秩父白岩山、前白岩山のダケカンバなど落葉広葉樹林の林床・腐葉土層に生息する。 | | | | |
| 【県内での生息状況】 | 最初の記録は、本種のタイプ産地となった旧大滝村(現秩父市)の前白岩山である。次の記録は、桑原(1991)が近くの白岩山のダケカンバ林から記録している。個体数は少なく、その後の記録もないため絶滅が危惧される。 | | | | |
| 【特記事項】 | 埼玉県以外の産地記録はない。 | | | | |

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

【目名・科名】 オビヤステ目ババヤステ科
 【和名】 シライワババヤステ
 【学名】 *Parafontaria shiraiwaensis* Shinohara
 埼玉県(2018) CR 環境省(2014) -
 指定状況 -

【形態】 体長約 32mm、体幅約 5mm、体色黄褐色。
 【国内分布】 本州（埼玉県）
 【主な生息環境】 奥秩父白岩山の林床・腐葉土層に生息すると思われる。
 【県内での生息状況】 本種は旧大滝村（現秩父市）の白岩山がタイプ産地として記載された（篠原，1986）。これまで生息が確認できず絶滅が危惧される種である。
 【特記事項】 タイプ産地以外の産地記録はない。

【目名・科名】 オビヤステ目オビヤステ科
 【和名】 ヨシダオビヤステ
 【学名】 *Epanerchodus yoshidai* Haga
 埼玉県(2018) CR 環境省(2014) -
 指定状況 -

【形態】 体長雄 25mm、体幅 3.5mm、体色淡赤褐色。体は非常にもろい。
 【国内分布】 本州（埼玉県）
 【主な生息環境】 タイプ標本となった個体は小さな鍾乳洞から発見された。本種は真洞窟性とは考えられず、付近の森林の腐葉土層にも生息するものと思われる。
 【県内での生息状況】 本種は 1951 年、旧大河村（現小川町）の古寺鍾乳洞で採集され、1956 年に新種として発表された。その後、周辺からも記録はまったくなく絶滅が危惧される。
 【特記事項】 タイプ産地以外の記録はない。現在、古寺鍾乳洞は洞内に入ることができない。

【目名・科名】 オビヤステ目ハガヤステ科
 【和名】 コブヤステ
 【学名】 *Pseudocatapyrgodesmus glaucus* Miyosi
 埼玉県(2018) CR 環境省(2014) -
 指定状況 -

【形態】 体長 5 ~ 5.5mm、体色灰緑色、胴節数 20。頸板前縁は左右の葉状突出部に分かれる。
 【国内分布】 本州
 【主な生息環境】 常緑広葉樹と落葉広葉樹の混交林の腐葉土中。好蟻性があり小型の蟻と一緒に採集されることが多い。
 【県内での生息状況】 これまでに、旧浦和市（現さいたま市）、小川町、幸手市の 3ヶ所から記録されている。蟻の採集時に本種が採集された。その後、同所を含めまったく記録がない。浦和の採集地等は不明であるが、浦和地区（現さいたま市）の近年の都市化に伴い生息地は著しく減少したため、この地域の個体は絶滅したと考えられる。小川町と幸手市の産地の生息環境は大きく変化していないが、その後、発見することができないため、絶滅が危惧される。
 【特記事項】 近県ランク 千葉：最重要保護生物（A）。

【目名・科名】 オビヤステ目エリヤステ科
 【和名】 キレコミヤステ
 【学名】 *Rhipidopeltis sinuata* Miyosi
 埼玉県(2018) CR 環境省(2014) -
 指定状況 -

【形態】 体長雄 5mm 体幅 1.4mm、体色淡黄白色、胴節数 20。側底の後縁基部近くに切れ込みがある。
 【国内分布】 本州、九州
 【主な生息環境】 広葉樹林の腐葉土層。
 【県内での生息状況】 旧荒川村（現秩父市）の熊倉山と小川町上古寺の 2ヶ所の記録がある。その後、記録がなく絶滅が危惧される。
 【特記事項】 本種のタイプ産地は、山口県の秋吉台狸穴入口付近の林である。

| | | | | | |
|------------|----------------------------------------------------------------|-----------|----|-----------|---|
| 【目名・科名】 | ヒメヤスデ目ホタルヤスデ科 | 埼玉県(2018) | CR | 環境省(2014) | - |
| 【和名】 | シロホタルヤスデ | 指定状況 | | | - |
| 【学名】 | <i>Kopidoiulus albulus</i> Haga | | | | |
| 【形態】 | 体長 25 ~ 33mm、胴節数 41 ~ 51、体色白色、各胴節側面に円い赤斑あり。無眼。 | | | | |
| 【国内分布】 | 本州 | | | | |
| 【主な生息環境】 | 富士山山麓の洞穴、東京都あきる野市の洞穴など本州中部亜高山帯の林床に生息する。冷涼な気候を好み、生息地は限定的と考えられる。 | | | | |
| 【県内での生息状況】 | 小鹿野町の八丁峠周辺から記録されている。その後、県内からはまったく記録されていないため、絶滅が危惧される。 | | | | |
| 【特記事項】 | 本種のタイプ産地は静岡県御殿場市の風穴である。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----|-----------|---|
| 【目名・科名】 | ヒメヤスデ目ホタルヤスデ科 | 埼玉県(2018) | CR | 環境省(2014) | - |
| 【和名】 | トリリュウガヤスデ | 指定状況 | | | - |
| 【学名】 | <i>Skleroprotopus torii</i> Takakuwa | | | | |
| 【形態】 | 体長約 30mm、胴節数 46 ~ 51、体色褐色。第 2 歩肢の基節の長さは幅の 2.5 倍ある。 | | | | |
| 【国内分布】 | 本州 (埼玉県) | | | | |
| 【主な生息環境】 | 鍾乳洞内及び洞穴周辺。 | | | | |
| 【県内での生息状況】 | 本種は 1940 年に旧影森村 (現秩父市) 上影森の橋立鍾乳洞をタイプ産地として新種記載された。次に、皆野町の水潜寺鍾乳洞から記録されている。その後、2 つの鍾乳洞及び周辺地域での記録がなく絶滅が危惧される。 | | | | |
| 【特記事項】 | 本種は、埼玉県以外からの記録はない。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----|-----------|---|
| 【目名・科名】 | ヒメヤスデ目ヒロウミヤスデ科 | 埼玉県(2018) | CR | 環境省(2014) | - |
| 【和名】 | ヨシダヒメヤスデ | 指定状況 | | | - |
| 【学名】 | <i>Yosidaiulus tuberculatus</i> Takakuwa | | | | |
| 【形態】 | 体長約 20mm、体節数オス 43 ~ 53、メス 49、体色黄白色。眼は各側 8 個で三角形をなす。 | | | | |
| 【国内分布】 | 本州 | | | | |
| 【主な生息環境】 | 本来は豊かな広葉樹林の林床に生息すると考えられる。 | | | | |
| 【県内での生息状況】 | 県内では、幸手市の 2 ヶ所の神社境内 (桑原, 2000) から記録された。境内はほうきで清掃されているが、落葉が堆積したイチヨウやケヤキの根元周辺から本種が確認された。その後、記録はない。現在、境内は当時より落葉の清掃が行き届いており絶滅が危惧される。 | | | | |
| 【特記事項】 | 本種のタイプ産地は、山梨県の富士吉田浅間神社である。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----|-----------|---|
| 【目名・科名】 | ヒメヤスデ目カザアナヤスデ科 | 埼玉県(2018) | CR | 環境省(2014) | - |
| 【和名】 | ミヤマタテウネホラヤスデ | 指定状況 | | | - |
| 【学名】 | <i>Antrokoreana takakuwai sylvestris</i> Shinohara | | | | |
| 【形態】 | 体長 15 ~ 18mm、胴節数 31 ~ 39、体色白色、各体節側面に朱色の斑点。無眼。 | | | | |
| 【国内分布】 | 本州 | | | | |
| 【主な生息環境】 | 林床の腐葉土層。 | | | | |
| 【県内での生息状況】 | 記録があるのは、タイプ産地の旧大滝村 (現秩父市) の前白岩山と小川町の数ヶ所である。県内に広く生息することが推測されたが、その後、発見記録はなく、絶滅が危惧される。 | | | | |
| 【特記事項】 | 基亜種のカザアナヤスデ <i>A. takakuwai</i> (Verhoeff) のタイプ産地は富士山麓の溶岩洞窟である。 | | | | |

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

〔目名・科名〕 ヒメヤスデ目ヒメヤスデ科
 埼玉県(2018) CR 環境省(2014) -
 〔和名〕 ツメフジヤスデ
 〔学名〕 *Anaulaciulus onychophora* Takakuwa 指定状況 -

【形態】 体長約20mm、体幅約1.5mm、体色黒色。前生殖肢は三角形を呈し端肢痕跡部に爪あり。
 【国内分布】 本州
 【主な生息環境】 森林の林床。
 【県内での生息状況】 県内の記録は東松山市のみ（篠原，1978）、具体的な採集地は不明だが、採集時期は1950年代と思われる。東松山市内の丘陵帯には多くの自然が残されているが、その後、記録はまったくなく、絶滅が危惧される。
 【特記事項】 本種のタイプ産地は群馬県の伊香保である。

〔目名・科名〕 イシムカデ目イシムカデ科
 埼玉県(2018) NT1 環境省(2014) -
 〔和名〕 アワヒトフシムカデ
 〔学名〕 *Monotarsobius chibenus* Ishii & Tamura 指定状況 -

【形態】 体長約6mm、体色は褐色～紫褐色、歩肢15対。触角小節は19、単眼は左右に各2列4～5個。
 【国内分布】 本州（関東以西）
 【主な生息環境】 落葉広葉樹林やスギ等の植林の混じった雑木林内の落枝落葉下、石の下や腐葉土中に生息する。
 【県内での生息状況】 県内からは、熊谷市柴および野原、小川町能増、嵐山町菅谷および平沢から記録されている。これまでの埼玉県内の記録地は台地・丘陵帯のみである。
 【特記事項】 本種のタイプ産地は、千葉県長南町である。

〔目名・科名〕 オオムカデ目メナシムカデ科
 埼玉県(2018) NT1 環境省(2014) -
 〔和名〕 スジメナシムカデ
 〔学名〕 *Cryptops striatus* Takakuwa 指定状況 -

【形態】 体長約17mm、体色淡黄色、歩肢21対。触角17小節、無眼。
 【国内分布】 本州
 【主な生息環境】 森林の林床。埼玉県内の記録地は落葉広葉樹林の林床。
 【県内での生息状況】 県内の記録は旧荒川村（現秩父市）川浦谷と小鹿野町志賀坂の2ヶ所のみである。採集記録が少なく過去の産地でも生息が確認できないため、絶滅が危惧される。
 【特記事項】 本種のタイプ産地は神奈川県江ノ島である。
 近県ランク 千葉：重要保護生物（B）。

〔目名・科名〕 ジムカデ目マツジムカデ科
 埼玉県(2018) NT1 環境省(2014) -
 〔和名〕 チチブジムカデ
 〔学名〕 *Falcaryus nipponicus* Shinohara 指定状況 -

【形態】 体長10～20mm、体色黄色、歩肢33、35対。顎肢の爪の根元に歯状突起、内側に板状突起物。
 【国内分布】 北海道（大雪山）、本州（中部亜高山帯） 北方系種である。
 【主な生息環境】 亜高山帯の原生林の林床に生息する。
 【県内での生息状況】 採集記録は、旧大滝村（現秩父市）の十文字峠だけである。
 【特記事項】 タイプ産地は、長野県の志賀高原である。

| | | | | | |
|------------|--------------------------------------------|-----------|-----|-----------|---|
| 〔目名・科名〕 | ジムカデ目ツチムカデ科 | 埼玉県(2018) | NT1 | 環境省(2014) | - |
| 〔和名〕 | スミジムカデ | | | | |
| 〔学名〕 | <i>Brachygeophilus dentatus</i> Takakuwa | 指定状況 | - | | |
| 〔形態〕 | 体長約25mm、体色黄色、頭と顎肢節は褐色、歩肢は41～47対。胸板前縁に凹みあり。 | | | | |
| 〔国内分布〕 | 北海道、本州 | | | | |
| 〔主な生息環境〕 | 埼玉県では亜高山帯の原生林林床から得られている。 | | | | |
| 〔県内での生息状況〕 | 県内での記録は、旧大滝村（現秩父市）の十文字小屋周辺および白泰山尾根の2例である。 | | | | |
| 〔特記事項〕 | 北海道では各地から記録されている。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|------------------------------------------------------|-----------|-----|-----------|---|
| 〔目名・科名〕 | ジムカデ目マドジムカデ科 | 埼玉県(2018) | NT1 | 環境省(2014) | - |
| 〔和名〕 | フチケミドリジムカデ | | | | |
| 〔学名〕 | <i>Cheiletha trichochilus</i> Takakuwa | 指定状況 | - | | |
| 〔形態〕 | 体長約45mm、体色緑色を帯びた灰黄色、頭部・顎肢節は栗黄色、歩肢49～53対。 | | | | |
| 〔国内分布〕 | 北海道、本州 | | | | |
| 〔主な生息環境〕 | 森林の林床、腐葉土層に生息する。 | | | | |
| 〔県内での生息状況〕 | 県内の記録は、旧大滝村（現秩父市）の雲取山と大峰林道の2ヶ所である。その後、記録がなく絶滅が危惧される。 | | | | |
| 〔特記事項〕 | 関東地方の記録が多い。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------|-----------|-----|-----------|---|
| 〔目名・科名〕 | ジムカデ目マドジムカデ科 | 埼玉県(2018) | NT1 | 環境省(2014) | - |
| 〔和名〕 | ミドリジムカデ | | | | |
| 〔学名〕 | <i>Cheiletha viridicans</i> (Attems) | 指定状況 | - | | |
| 〔形態〕 | 体長約30mm。体色は頭部褐色、胴部緑黄色、歩肢41～47対。 | | | | |
| 〔国内分布〕 | 本州 | | | | |
| 〔主な生息環境〕 | 落葉広葉樹林の林床、腐葉土層に生息する。 | | | | |
| 〔県内での生息状況〕 | 旧荒川村（現秩父市）の熊倉山の日野コース登山道入口と登山道一ノ橋の林床から記録されている。また、小川町上古寺からも記録されている。 | | | | |
| 〔特記事項〕 | 本種は、県内に広く分布しているヤマミドリジムカデ <i>C. trichochilus pauroporus</i> (Shinohara) に酷似している。 | | | | |

| | | | | | |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-----|-----------|---|
| 〔目名・科名〕 | ヒラタヤステ目ヒラタヤステ科 | 埼玉県(2018) | NT1 | 環境省(2014) | - |
| 〔和名〕 | ヤマシナヒラタヤステ | | | | |
| 〔学名〕 | <i>Symphyleurium noduligerum</i> (Verhoeff) | 指定状況 | - | | |
| 〔形態〕 | 体長約10mm、体色鮮紅色、胴節数38～44。頸板に2列の瘤隆起、背板の側底に凹みがある。 | | | | |
| 〔国内分布〕 | 本州、四国、南西諸島 | | | | |
| 〔主な生息環境〕 | 奥秩父では落葉広葉樹と針葉樹の混交林の林床。 | | | | |
| 〔県内での生息状況〕 | 三好（1959）が秩父を分布地として記録しているが、具体的な産地や採集年月日等は不明である。他には桑原（1993）により、旧大滝村（現秩父市）の白泰山尾根の記録がある。 | | | | |
| 〔特記事項〕 | 本種のタイプ産地は沖縄本島である。 | | | | |

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物